



まちのにぎわいのために

布田 恵美

問 新たに創設した「いわぬま健康大使」（俳優西村雅彦氏、音楽家三枝成彰氏）活用の今後の考えはどうか。

市長 震災からの復興に関する情報の発信、まちづくりに関するさまざまなPRなど、岩沼の発展や活性化のためなどに引き続き協力頂きたいと考えます。

問 「健康大使」の費用負担、任期はどうか。

市長 直接的には費用負担のないボランティアで、任期は平成30年と（委嘱状に）書かせていただいています。

問 「健康大使は岩沼市のイメージアップと観光及び産業振興を図る」とあるが、産業振興にどのような役割を果たすのか。

市長 具体的に観光産業振興に、どの程度役立つかわかりませんが、例えば、岩沼来訪をマスコミ等に取り上げていただくことで相対に発信の役割は大きいと思います。

問 武隈の松（二木の松）が国の文化審議会において「奥の細道」

風景地の一つとして名勝指定が答申されたが、岩沼市として今後どのように生かしていくのか。

市長 正式に名勝指定がされた際には、イベント等の開催、広く市民皆さまに周知するとともに内外に情報を発信していきたいと考えます。

「芭蕉めし」 継続しては

問 期間限定（12月15日まで）で芭蕉にちなんだ食事「いわぬま芭蕉めし」という展開があったが、よそからお出でになられた方々（交流人口）に岩沼で立ち止まって、お金を使っていただけのように参加店の構成を変えたり、季節メニューを取り入れて今後も継続していくてはどうか。

市長 市は、きつかけづくりや情報提供ということで進めてきましたので、引き続き協力を頂いた方々のご意見を聞いて、次の展開という形で進められればありがたいと思います。

◎その他の一般質問
・学力向上対策

問 （全国で）年間約5万人が胃癌によって亡くなっている。その大きな原因が、ピロリ菌といわれている。特定健診では血液検査が行われているので、そこにピロリ菌の検査項目を加えるだけで、感染の有無とがん発症のリスクが分かり、感染者は除菌を行えば、胃がん予防効果があると言われていいる。そこで、胃がん対策として、健診にピロリ菌検査を追加してはどうか伺う。

市長 結論としては、現方式による検査結果や医療機関での診断によつて検査や治療を行った方が、効果的ではないかと考えます。

胃がん対策を検討しては

問 胃がん対策という部分で、国の動向を見ながら、もし、国の動向がしっかりした場合には、ある程度の検討も必要だと思いがどうか伺う。

市長 当然のことながら、国の動向ということは十分注目していかなければならないと思います。国の方がしっかり財源を含めて対応

してもらおう場合については、これは速やかに取り組みたいと思います。

問 インフルエンザの予防接種助成制度について、これまで乳幼児への助成を提案してきたが、明確に予防接種法に位置付けられた場合には、改めて考えますという回答があった。最近県南の方で、受験生を対象にしたインフルエンザの予防接種（助成）の輪が広がっている。そこで、受験の部分で、中学生（3年生）を対象にした予防接種助成制度を創設してはどうか伺う。

市長 今の段階としては、任意接種の対象ですので、市の助成ということとは困難であるとお答えをします。なお、近隣とか、そういった状況についてもできるだけ調査をし、対応しなければならぬと思います。

◎その他の一般質問
・教育行政
・避難所対策



予防施策の充実

長田 忠広